

平成 30 年度第 2 回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	平成 31 年 2 月 12 日（火）午後 2 時から午後 4 時まで
参加者	<p>委員：別紙委員名簿のとおり</p> <p>事務局：まちづくり協働課長、高齢者福祉課長（司会）、高齢者福祉課長補佐、地域支援係長、担当主事（2 名）</p>
場 所	市役所北庁舎 3 階 302 会議室
内 容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉課長挨拶 ・ 会議開催要件の確認 <p>2 議事</p> <p>(1) 瀬戸市の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 7 期高齢者福祉計画・介護保険事業計画（概要版）を基に事務局から高齢化の問題や地域のつながりや地域資源を話し合う当会議の意義について説明。 <p>→[シルバー人材センター]</p> <p>「要支援や要介護になっていないが、日常生活で困りごとを抱えている方」に対してシルバー人材センターとして手助けしていきたいと考えているが、そういった方の数を把握されていれば教えてほしい。</p> <p>→[事務局]</p> <p>市として正確な人数は把握できていない。（住民情報から単身世帯や高齢世帯等の抽出は可能）今まで、要支援者向けサービスを拡充してきたが、今後は、介護予防や生きがいに注力することで、要支援になっていない方への支援を進めていく。</p> <p>→ [シルバー人材センター]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要支援にならないように食い止めるための施策が不明確と感じる。シルバー人材センターとしては、そのような方の支援をできる限り行っていきたい。 ・ 毎年、シルバー人材センターの会員が 20～30 名がやめていっており、元気な方が引きこもりになり要介護状態となることを恐れている。会員の O B 対策も必要である。（復帰のために仕事内容の種類を多様化させるべきか検討） <p>[まごころ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に困っている人が「困った」と言えていないことが問題。誰に聞けば良いのか、何を頼めるのか、市全体にそれを聞きやすい雰囲気を作っていくことが大切であり、担い手養成のための勉強会ばかりやっても仕方がない。 ・ 第 3 層（事業所等の現場）も含めた連携を作っていく必要がある。 ・ 困りごとや困っている方の実態把握が必要。 ・ 居場所に関しては、週 1 回の居場所づくりではなく、毎日通えるような居場所づくりをすべきである。 ・ 地域ケア会議など、各種会議体はあるが、実体をもった活動が必要。

(2) 地域資源の発掘・共有について

- ・ 別添資料「地域課題の解決策（案）」に基づき、各団体から地域資源の現状について意見交換を実施。

[瀬戸介護事業連絡協議会]

- ・ 介護事業所として地域貢献の思いはあるが、現状、それぞれの事業所が別々に行っている状況。介護事業所でも介護保険外サービスの方とも関わることができはらずで、例えば、地域におけるサロンのサポートや、デイサービス等の空き時間の送迎車両の活用など。車両の活用については、保険は問題とならないが、スタッフがいらないため人件費が問題となる。

[瀬戸市老人クラブ連合会]

- ・ 老人クラブとして介護予防の取組みを既に活動している。
- ・ 独居の方を助けていこうという声もあがっている。

→ [委員長]

- ・ 老人クラブの活動自体が素晴らしいものなので、目立って活動していただくことにより、会員数を増やして欲しい。

[瀬戸市民生委員児童委員協議会]

- ・ 海外では、広場等で気軽に誘い合ってお酒を飲むという雰囲気がある。
- ・ 自身の意見の振り返り
 - ・ どの団体も忙しくて手一杯な状況の方が多い。
 - ・ 空き家の活用は容易ではない。
 - ・ すべて無償ボランティアでやることには限界がある。 など

→ [委員長]

- ・ コンビニが地域のニーズに応じて陳列商品を検討している様子なので、(民間の協力を得るという観点で) コンビニに高齢者が通う様子をアピールすると、コンビニ側も高齢者に向けた商品(野菜や介護用品等)を陳列してくれるようになり、買い物として改善される可能性がある。

[まごころ]

- ・ 老人クラブのようなつながりは良いものだと思う。(お互い様)
- ・ NPOとして現在、買い物ツアーなどを行っているが、移送の支援はもちろん、参加者同士の話し合いの場としても大変有意義であり、交流の場が大切。
- ・ 買い物に関してインターネットを使用した配送等のサービスはあるが、買い物は自分の目で見て選びたい方が多い。また、家族に同乗させてもらうと、祖父母としてお金を出す立場になったり、自分の好きなものが食べれない等の不都合がある。(買い物のついでにお寿司を食べたい等のニーズがある)

[やすらぎ地域包括支援センター]

- ・ 地域包括支援センターそれぞれが、地域によってニーズが大きく異なるため、地域によって役割や必要性が異なっている。実際に包括職員が地域に入り、ニ

平成 30 年度第 2 回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

ーズや課題を聞き出すことからその要因が見えてくるものであり、そのためにも地域ケア会議等を開催していく意義がある。

- ・ 以前、赤津地区の方に話を聞く機会があった。車がない前提で、バスの時間に合わせた生活に慣れているため、車がないことに不便を感じない。不便を感じるとしたら、バス停まで歩けなくなった場合とバスのステップを上がれなくなった場合ですと言っていた。（地域や個人によって問題意識は違う）また、そういった相談等を聞いているケアマネは地域問題を把握している。

[瀬戸市自治連合会]

- ・ 地域団体が分担し、民生委員と連携しながら、見守りを行っていく必要がある。
- ・ お助けたいを西陵で 11 年前から実施しているが、有償化も検討している。
- ・ 行政から言われたことだけではなく、自主的に事業に取り組んでいくことを進めていきたい。（改革組織）

[地区社協会長連絡会]

- ・ 人材不足が課題。婦人会において買い物支援（まとめ買い）を行うなどしている。ただ、事故が心配である。

[公益社団法人瀬戸市シルバー人材センター]

- ・ シルバー人材センターとして人材不足であるが、提供できる仕事を広げていく必要性を感じている。また、ワンコインでできることの重要性も感じている。
- ・ 従来の請負や委託がシルバーの仕事の大多数を占めているが、事業所への派遣も増えてきている。
- ・ 病院の付添い等の介護職員の代わりをすることができれば、シルバーは働く場所が確保でき、介護職員の方は業務量を減らせるという互いに有益な事業も検討していきたい。
- ・ 他団体とも、提供できるサービスの範囲を検討しながら、ニーズと情報のマッチングをいかにスムーズに行っていくか検討していきたい。

[生活支援コーディネーター（第一層）（松田氏）]

- ・ 地域によって課題やニーズが異なるので、社協として地域担当制をしき、実際に地域に入っていくことで、歩いていける地域の居場所（よりどころ）の推進を図り、地域の課題を聞き出せる場としていきたい。
- ・ 今年度、買い物バスの運行を 2 回実施し、買い物支援も進めた。来年度についてもバスでの買い物支援を実施することで、地域で買い物支援を考える機会を作りたい。

[生活支援コーディネーター（第一層）（山城氏）]

- ・ 【①担い手不足】については、キーワードから、「魅力ある活動の啓発」つまり、自身の活動が魅力ある活動として他にアピールできれば他の方も参加してみたいのではないか。また、「個別にできる人探し」つまり、求人内容を具体化させ、『こういった人を募集しています』ということで担い手を探した方が、ただ漠然と仲間を探すよりも効果的なのではないか。（簡単な内容を示

平成 30 年度第 2 回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

し、その内容なら自分にもできると思っていたら、少しずつ仲間が増えていく) これは、「簡易な作業を担うこと」も同義ではないかと思われる。そういった新たな担い手が前向きになれるような体制を築いていくことが、担い手不足の解消に繋がるのではないかと皆様の意見から感じた。

- ・ 【②移動の問題】については、「居場所（よりどころ）の推進」により、困りごとを聞き取る場を設けて、内容次第では、「オンデマンドサービス」や「同乗の選択肢」に繋がるような、地域での助け合いに発展することが期待できるのではないかと。そういった個別の案件から、「介護サービスでの移動支援」や「住民バス」や「(福祉) タクシー利用」等の地域や団体を巻き込んだ活動が生まれていく可能性がある。その際には、特に「一人暮らしへの協力」について検討していくことにより、移動の問題の解消に繋がるのではないかと思う。
- ・ 【③買い物支援】については、移動の問題と共通する箇所が多いと思うが、「生協などの予約制訪問販売、スーパーマーケットの配達制度など」や「地域のコンビニ等に生活食品を置いてもらう」や「食料品店に配達を依頼（昔の御用聞き）」といったような既存の資源である民間の協力を得る手段も検討すべきと感じた。
- ・ 3つの課題はすべて繋がっており、「移動のための人出が欲しい」や「買い物支援の人出が欲しい」といった具体性を持った内容から「それぐらいの内容なら自分で手伝えるよ、協力するよ」と言った声が生まれてれば支援者が増えて担い手不足の解消にも繋がるかと思う。
- ・ 地域ごとに多くの活動があり、内容也多岐に渡る。資源は各団体にすでにある。それらをマッチングしていく取組みが必要。各団体から課題も出ているので、それらを抽出して解決する流れをつくっていききたい。

(3) 生活支援コーディネーターの報告等

- ・ 別紙資料「居場所・通いの場一覧」と「市内出前講座等一覧」について各団体へ情報提供。(既存のものを資源として活用いただきたい旨説明)

3 その他

・ [事務局]

- ・ 第2層生活支援コーディネーターを現在の3地区のままで、平成31年度も運用していく旨説明した。
- ・ 平成31年9月末日をもって、現委員が委嘱されてから3年が経過するため現メンバーでの会議は一度区切りを迎えたこととなる旨説明。

4 閉会